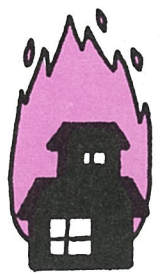


8分に1回

どこかで火災が起きています

秋の全国火災予防運動 11月9日～15日



住宅防火のポイント

①寝たばこは厳禁

最も多い住宅火災の発火源はたばこです。特に寝たばこが原因の火災で死者が出るケースが多く、就寝前に布団の中での一服はとて危険です。

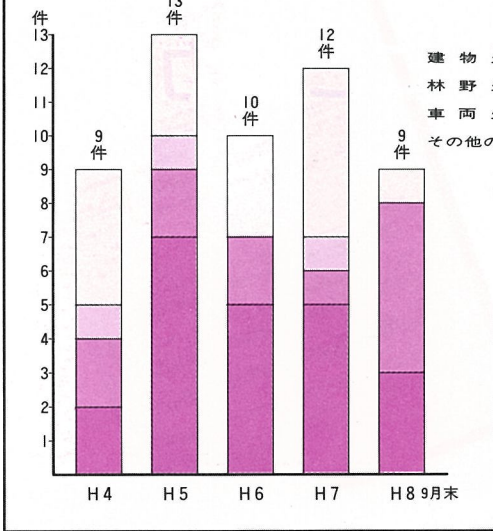
②台所を離れるときは火を止める

死者が出るほどの大火事は深夜に多いのですが、火事が最も多発するのは晩ごはんを準備する夕方から午後8時にかけての時間帯。電話や来客で、天ぷら鍋などを火にかけてたまま台所を離れないようにしましょう。

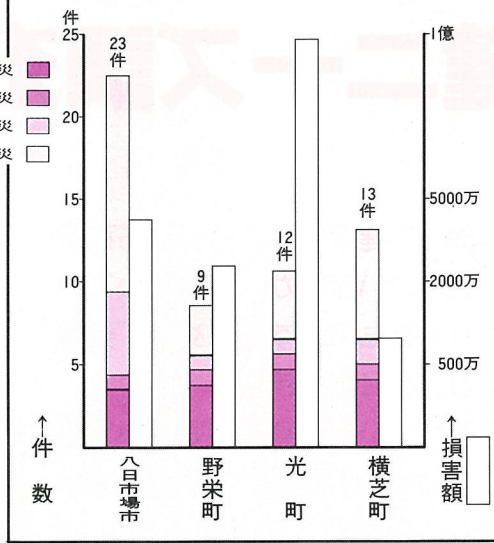
③年に一度はプラグをチェック

冷蔵庫など電気製品のプラグをずっとコンセントに差したままにしておくと、長い間にほこりがたまり、そこに水分がつくと電気がショートして火事の原因になります。タコ足配線や電気コードを束ねて使うのも危険です。

光町の火災発生件数



管内市町別件数と損害額



管内の火災は57件

管内の7年中の火災件数は57件、6年中と比較すると7件増加、損害額は約1億8013万円の貴重な財産が灰になりました。また3名の人が負傷しました。出火原因は「たき火」が23件と最も多く、「放火」7件、「たばこ」6件の順となっています。「たき火」は平成2年から連続して首位です。

町内は12件 2月と12月の2カ月で8件

光町の7年中の出火件数は12件で6年に比べ2件増加しました。火災種別をみると建物火災が5件、車両火災が1件、林野火災1件、

枯草やゴミ焼きの火が燃え広がったものが4件、その他1件でした。

特徴としては2月と12月の2ヶ月間に8件もの火災が発生しています。

また今年9月末までに建物3件、林野5件、その他1件とすでに9件の火災が発生しています。

原因別では天ぷら鍋の放置2件、不審火・放火等3件、たばこやゴミ焼却などが主なものです。

注意すれば防げる火災はたくさんあります。火の後始末を完全にすることをいつも忘れず、火災を防ぎましょう。

犠牲者の半数は高齢者

火災による死者の中で、特に目立つのが高齢者の数です。昨年1年間に全国で死亡した人は939人で半数を超える503人が65歳以上の高齢者でした。

主な理由は体力の衰えや病氣・体が不自由であったための逃げ遅れです。石油ストーブや電気製品の不注意な使用によって一人暮らしのお年寄りが火災を引き起こすケースも少なくありません。

また、火災で家が燃え広がる速さは、1分間に75cm程度、5分後には半径3.75m、面積44㎡(畳26枚程度)、10分後は177㎡(畳106枚程度)が燃えることとなります。